

右翼労働戦統一粉碎、争議団労働組との連帯を!

日刊 動労千葉

81.9.16
No846

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六(公衆)電話)二七二〇七

9/11反弾圧闘争、青年部45名が決起!

9月11日、東京・清水谷公園において、「9・11 反弾圧集会」が開催された。

この反弾圧闘争は七六年・全都争議団にかけられた警視庁公安二課主導の大弾圧への反撃からはじまり、今回で6回目を迎え、約五〇〇名の闘う仲間が集会に結集した。動労千葉青年部は、一三三の争議団、闘う労働組・守る会などとともに実行委員会を形成して、この日の反弾圧闘争をたたかいた。そして、当日、各支部より四五名の代表が参加し、この秋の闘いとして、10・11三里塚へ、動労「本部」告訴路線弾劾、「本部」反動分子を労働運動から一掃せよ、右翼の労働戦統一粉碎としてたたかいたことを全参加者に呼びかけ、日比谷公園までのデモを貫徹し、最先頭でたたかいた。

反対同盟・北原事務局長の「10・11三里塚総決起」アツピールを全体で確認

午後6時、東京・清水谷公園に到着した動労千葉青年部は、全員がゼッケン・ハチマキをしめ、出版労働者連帯会議、全金本山、東大演習林職組の仲間たちとの前段集会をおこなっていった。

集会は、午後6時半にはじまった。

司会者あいさつの後、連帯のあいさつを三里塚反対同盟北原事務局長、在日韓国人政治犯を救う会から受けていった。とりわけ北原事務局長は、革マル派による新たな三里塚破壊攻撃や動労千葉に対する権力への告訴を弾劾し、二期工事が切迫している三里塚へ全ての労働者の10・11現地集会への総力結集を訴えた。

基調報告の後、機械工業新聞労働組、山谷統一労働組、全林労からの決意表明をうけた。日本帝国主義の軍事大国化・改憲攻撃の反動攻撃が次々とかけられてくる中で、労働運動においては右翼的労働戦統一が進められている。

不屈に闘いつづける争議団への不当な刑事弾圧や闘争破壊攻撃の激化は、右翼的労働戦統一を進めるためには争議団などがあってはならないのである。権力・資本と真正面から闘っている争議団の存在 権力・資本に大きな恐怖を与えていることによってかけられてきているのである。

一九七六年の「九・一四反弾圧闘争」からはじまった闘争でも6年目を迎え、ますます地域共闘や争議団の勝利をかちとってきている。全参加者は、この成果のうえに立って、三里塚二期阻止へむけ決起することを確認しあった。

全職場から「告訴・革マル」を粉碎し、右翼労働戦統一粉碎・三里塚総決起へ!
— 田中青年部長が発言 —

集会終了後、全参加者が日比谷公園までの戦闘的デモを警察権力の弾圧をはねのけ貫徹した。

日比谷での全体の集約集会では、最初に動労千葉を代表して田中青年部長が、「二期工事着工の本格的開始を前に風雲急を告げる三里塚へ全労働者が総決起すること、10・11へ全ての労働者が総決起すること、動労千葉を権力に告訴し解雇処分を要請する『本部』革マルを一掃すること、右翼的労働戦統一を粉碎すること」を訴え、全参加者の拍手によって確認された。この後、東水労、トッパンムーア労働組からの連帯と決意の表明があり、インターナショナルを合唱して9・11反弾圧闘争の全行動を終っていった。

「本部」反動分子による権力への告訴とそれによる6名の逮捕と3名の起訴攻撃は文字通り警察と「本部」反動分子が一体となった動労千葉破壊攻撃である。そして、国鉄当局による起訴・休職攻撃を絶対に粉碎しなければならぬ。警察・当局・「本部」反動分子一体のこの凶暴な攻撃に対して、全ての闘う労働者と共に粉碎していくため反弾圧闘争の更なる飛躍をかちとていかなければならぬ。

